



僕が跳びはねる理由

30か国以上で出版された大ベストセラーを映画化

日本人の少年が紡いだ言葉が世界中の自閉症者と家族を救った——誰も見たことのない驚きと感動のドキュメンタリー

原作 東田直樹 『自閉症の僕が跳びはねる理由』

A JERRY ROTHWELL FILM

THE REASON I JUMP



みんな同じ空の下、
「普通」の君と
自閉症の僕との未来は
きっとつながる

自閉症の人は 普通の人になりたいですか？

僕らがもし、普通になれるとしたら、どうするでしょうか。
きっと、親や先生や周りの人たちは大喜びで、「普通に戻してもらいたい」と言うでしょう。
ずっと「僕も普通の人になりたい」そう願っていました。
障害者として生きるのが辛くて悲しくて、みんなのように生きていけたらどんなにすばらしいだろう、
と思っていたからです。
でも今なら、もし自閉症が治る薬が開発されたとしても、僕はこのままの自分を選ぶかも知れません。
どうしてこんな風に思えるようになったのでしょうか。
ひと言でいうなら、障害のある無しにかかわらず人は努力しなければいけないし、
努力の結果幸せになれることが分かったからです。
僕たちは、自閉症でいることが普通なので、普通がどんなものか本当は分かっていません。
自分を好きになれるのなら、普通でも自閉症でもどちらでもいいのです。

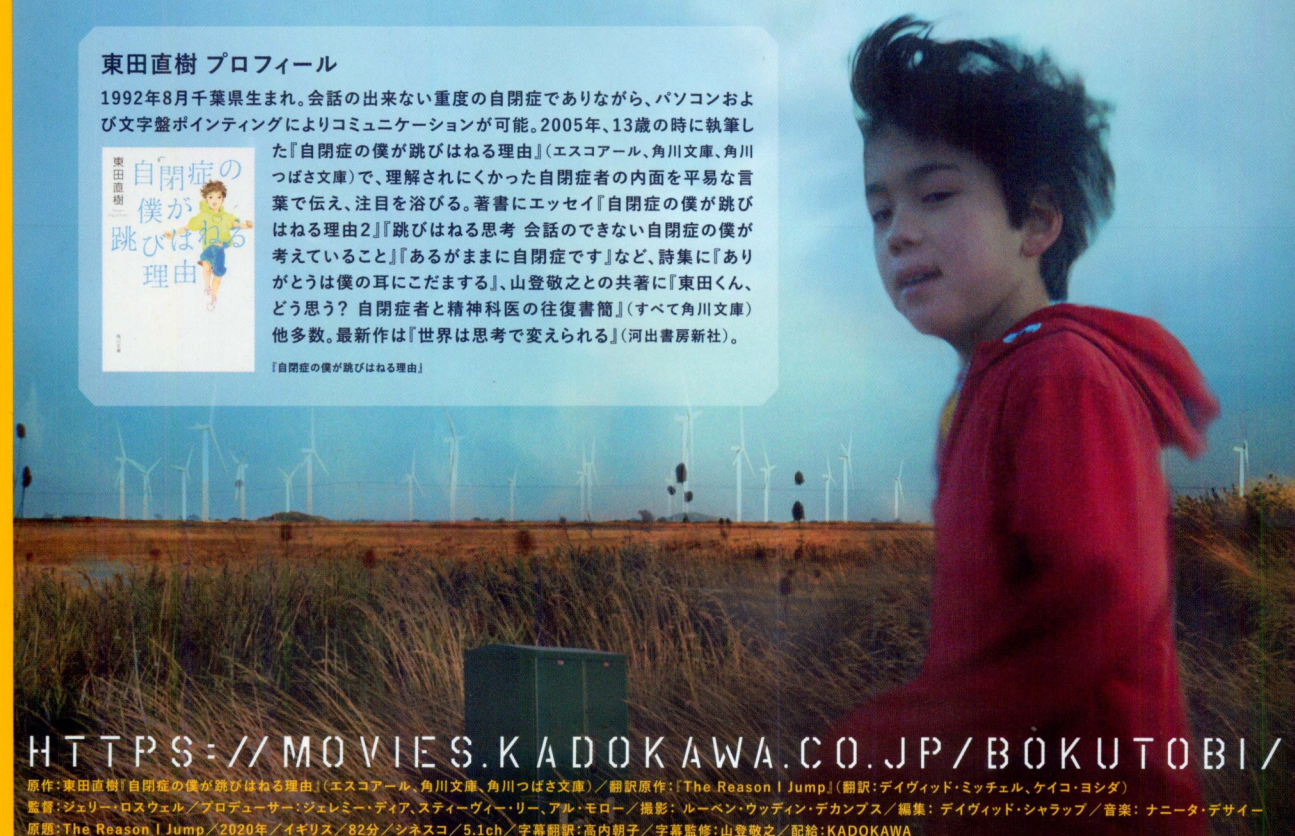
(東田直樹著「自閉症の僕が跳びはねる理由」より)

東田直樹 プロフィール

1992年8月千葉県生まれ。会話の出来ない重度の自閉症でありながら、パソコンおよび文字盤ポインティングによりコミュニケーションが可能。2005年、13歳の時に執筆した『自閉症の僕が跳びはねる理由』(エスコアル、角川文庫、角川つばき文庫)で、理解されにくかった自閉症者の内面を平易な言葉で伝え、注目を浴びる。著書にエッセイ『自閉症の僕が跳びはねる理由2』『跳びはねる思考 会話のできない自閉症の僕が考えていること』『あるがままに自閉症です』など、詩集に『ありがとうは僕の耳にこだまする』、山登敬之との共著に『東田くん、どう思う？ 自閉症者と精神科医の往復書簡』(すべて角川文庫)他多数。最新作は『世界は思考で変えられる』(河出書房新社)。



『自閉症の僕が跳びはねる理由』



HTTPS://MOVIES.KADOKAWA.CO.JP/BOKUTOBI/

原作:東田直樹『自閉症の僕が跳びはねる理由』(エスコアル、角川文庫、角川つばき文庫) / 翻訳原作:『The Reason I Jump』(翻訳:デイヴィッド・ミッチェル、ケイコ・ヨシダ) / 監督:ジェリー・ロスウェル / プロデューサー:ジェレミー・ディヤ、スティーヴ・イー・リー、アル・モロー / 撮影:ルーベン・ワッティン・デカンパス / 編集:デイヴィッド・シャラップ / 音楽:ナニータ・デサイ / 原題:The Reason I Jump / 2020年 / イギリス / 82分 / シネスコ / 5.1ch / 字幕翻訳:高内朝子 / 字幕監修:山登敬之 / 配給:KADOKAWA

4/2(金)驚きと感動のロードショー

【2/19(金)発売開始】
特典(特製ポストカード)付き
ムビチケカード1,500円

ビックカメラ上(発売会場BF) JR有楽町駅 国際フォーラム出口前 角川シネマ有楽町 03-6268-0015 www.kadokawa-cinema.jp/yurakucho/	新宿駅東口 伊勢丹メンズ館そば 新宿ピカデリー 050-6861-3011 www.smt-cinema.com/site/shinjuku	JR吉祥寺駅 バルコB2階 アップリンク吉祥寺 0422-66-5042 jiji.uplink.co.jp
---	---	---

普通の人である私に、驚きに満ちた〈自閉症〉の世界を魅せてくれた作品。限りなくリスペクトを感じる。それにしても、こんなイメージ豊かな人たちが〈自閉症〉というネーミングって考えてみたら、すごく違和感だよな。

原一男(映画監督) KAZUO HARA

この映画の旅は、場面や音、質感そして時にはまるで実際に手に触れるかの如く、あなたの五感を総動員して、自閉症者の世界に浸ることができる

— Backseat Mafia

彼等は、私達と異なる感性の扉を開き、未知の気付きを与えてくれた。高く高く跳んで、押し寄せる感情の縛りを解き放ってほしい。すべての人に安らぎを与える社会でありたい。

原日出子(女優) HIDEKO HARA

さみしさを、言葉にしてくれたから、愛しさになった。このさみしさを知っていた人は、どれだけ嬉しかっただろう。はじめて知った私も、いま、嬉しくてたまらない。

岸田奈美(作家) NAMI KISHIDA

『僕が跳びはねる理由』は今年公開される作品の中で最も緻密で強烈、そして感覚的な体験ができる作品になるだろう

— HeyUGuys

深く、感動的な体験!

— The film stage

自閉症の描き方が自然であり、この映画が自閉症を知らない人にとって知るきっかけの一つになれば良いと思います。

栗原類(俳優・モデル) LOUIS KURIHARA

驚異的な作品!
— The Hollywood Reporter

この世界は本質的に不確かで抽象的だ。暗く広大な海に飛び込み、感性の原石を探そうと深く深く潜っていくような映画。絶えず我々を揺るがす矛盾の中で美しく生きるには。

荒神明香(現代アートチーム目[mé]アーティスト) HARUKA KOJIN

わたしたちには誰もが自分の尊厳を保てる居場所が必要だ。文化や芸術こそが、意識と無意識に橋を架けわたしたちの居場所をつくる。五人の若者と支援者がどのように居場所を獲得してきたのか。その軌跡こそが未来の社会の光だ。

稲葉俊郎(医師) TOSHIRO INABA

実に野心的な作品だ。本作は、我々の理解を求める、深い思いやりと感動の呼びかけであり、自閉症とともに生きる人々への絶大な支持を表明している

— Flickering Myth

『僕が跳びはねる理由』はあなたの考え方を変えるだろう。そう言える映画が果たしてどれくらいあるだろうか?
— Screen Daily

東田直樹氏の原作『自閉症の僕が跳びはねる理由』がそうであるように、この映画は私たちに「普通とは何か?」という抽象的な疑問を改めて我々に問いかけている。自閉症と自閉症ではない人たちの世界を繋ぐ架け橋となる、優しい革命的な作品だ。

デイヴィッド・ミッチェル(作家) DAVID MITCHELL
※『自閉症の僕が跳びはねる理由』(東田直樹著)の英語版『The Reason I Jump』翻訳者、代表作に『クラウド・アトラス』など。